



カジュアルに楽しむ Jリーグな日々。
FAGIANO OKAYAMA BACK UP PROJECT

ファジ★カジ



▲真剣な表情で、読み聞かせのポイントについて教えてもらう



▼子どもたちと一緒にノリノリで手遊び♪



えほんの読み聞かせ レポート

地域との交流でクラブを身近に感じてもらう活動の一環として、ファジアーノ岡山の選手が図書館で絵本を読み聞かせる催しが年に何度か開かれています。11月初旬、岡山市立中央図書館で行われた様子をレポートします。

本番を前に控え室でスタンバイする2人。大舞台には慣れているものの、普段とは違う「えほんの読み聞かせ」とあって、ちょっぴり緊張感も漂っているような…。

——絵本は自分で選んだんですか？

加地 図書館が推薦してくれた何冊かの中から選ぶんだけど、紳吾（久木田）と相談して決めました。

——どんな絵本ですか？

加地 『うみやまがっせん』っていう絵本で、サルが海に釣り糸をたらずと、大ダコが引っぱり返ってきます。そのあと動物と魚が次々現れて、山と海で引っぱりっこになるっていうお話です。

——にぎやかで楽しそうなお話ですね。久木田選手はどんな絵本を？

久木田 僕は『ねずみのいもほり』です。7つ子のネズミがお父さんと一緒に芋掘り大会に出かけるんです。お父さんの作ったスコップを使って一等賞をとって、帰りはその大きなお芋でカヌーを作って戻ってくるという平和なお話です。実は前回参加したときに選んだ本が少し怖くて、子どもたちが静まり返っちゃって…（苦笑）。その反省を生かして、今回はハッピーエンドの話にしました。

——絵もかわいらしいですね。加地選手の本を

『うみやまがっせん』とした理由は？

久木田 僕の絵本がかわいい感じなので、加地さんには、引っぱり合って勝負するっていう、ちょっと男の子っぽい内容がいいかなと…。

——読む練習はされましたか？

加地 トレーナールームで練習したんですけど、みんなにダメ出しされました。絵本って、ひらがなばかりだから、言葉の区切りとかイントネーションとかがわからなくなってくるんですよ。意外と難しいですね。

久木田 僕は家で練習していたら、奥さんが「会話の前はひと呼吸置いたほうがいいよ」とか、いろいろアドバイスしてくれました。

その後、図書館のスタッフから読み聞かせのポイントについてレクチャーを受ける2人。読む速度やページのめくり方などのコツを頭に入れて、いざ本番へ。最初に子どもたちと一緒に手遊びをして、会場の雰囲気や和んだところで読み聞かせがスタート。まずは久木田選手。絵にぴったりの優しい語り口で読み聞かせると、子どもたちも聞き入っています。次の加地選手は、「ほら、トラが出てきたよ」「どっちが勝つと思う？」などと、時折子どもたちに話しかけながら読み進めていきます。3人のお子さんのパパでもあ

る加地選手は、さすが、子どもの心をつかむのが上手。その後、紙芝居を使ったゲームや質問タイム、サイン会などで、子どもたちは選手と真近に接したり、話したりして大喜び。読み聞かせの会は無事に終了しました。

——読み聞かせを終えての感想は？

加地 『うみやまがっせん』は、引っぱりあった末に、カニが現われて糸を切って終わるので、最後までテンションで読んだらいいの難しかったですね～。でも、みんな真剣に聞いてくれて楽しかったです。

久木田 僕も練習の甲斐あって、いい感じで読みました。表紙と背表紙の絵がつながっていることに、子どもたちが気付いてくれました。絵本のセレクト、正解でしたね。

——ちなみにお2人は、子どものときに好きだった絵本を覚えてますか？

加地 俺は『日本昔ばなし』のシリーズをよく読んでましたね。

久木田 僕は『はらぺこあおむし』が好きでした。本に穴が空いている仕掛けが、子どもには楽しいですよ。

子どもたちに負けず劣らず、充実した表情で帰途に着いた2人でした。